

ボクは坊さん。

『ALWAYS 三丁目の夕日』スタッフが「ほぼ日刊イトイ新聞」の人気連載を映画化

住職が綴った実話エピソードをもとにした、 坊さんエンタテインメント映画の誕生！！

高野山開創 1200 年という記念の年に、お坊さんが主人公の映画が誕生した！製作は『ALWAYS 三丁目夕日』のスタッフ陣。糸井重里氏が編集長を務める「ほぼ日刊イトイ新聞」に掲載されており、一日 140 万 PV を超える人気連載だった原作の著者は、24 歳の若さで愛媛県今治市にある四国八十八ヶ所霊場五十七番札所の栄福寺住職になった白川密成さん。「コメディドラマを観るように読んで欲しい」との思いで書かれた白川さんの体験記の中には、身近なのにあまり知ることのないお坊さん生活の様々な興味深いエピソードに溢れている。お坊さんだって、普通の人間。時には悩んで、人生につまづいて、、、知られざる「坊さんワールド」は、笑って泣けて、そして心癒されるエンタテインメント作品になっている。

白方光円、24 歳。突然の祖父の死をきっかけに書店員の仕事を辞め、四国八十八ヶ所霊場、第 57 番札所・栄福寺の住職になったばかり。この寺で生まれ育ったけれど、住職として足を踏み入れた“坊さんワールド”は想像以上に奥深いものだった！

初めて見る坊さん専用グッズや、個性豊かな僧侶との出会いにワクワクしたり、檀家の人たちとの関係に悩んだり。お葬式や結婚式で人々の人生の節目を見守るのはもちろん、地域の“顔”としての役割もお坊さんには必要。職業柄、人の生死に立ち合うことで“生きるとは何か？死ぬとは何か？”と考えたりもする。坊さんとしての道を歩み始めたばかりの光円に何ができるのか。何が伝えられるのか。光円は試行錯誤を繰り返しながら、人としても成長していく……。

祖父の死をきっかけに 24 歳で突然住職を務める事になった白川光円を説得力たっぷりに演じるのは、伊藤淳史。温かく人情味にあふれ、“こんなお坊さんに近くにいてほしい”と誰もが思うような、魅力的な光円像を体現している。光円を取り巻く人々を演じるのは、山本美月、溝端淳平、濱田岳、松田美由紀、そしてイッセー尾形など、個性的なキャストたち。それぞれに味のある演技で、感動のドラマを盛り立てる。原作は、栄福寺の住職・白川密成氏が実体験を生き生きとつづいた「ボクは坊さん。」。「ほぼ日刊イトイ新聞」の人気連載だった本作を『ALWAYS 三丁目の夕日'64』で監督助手を務めるなど、第一線の現場でキャリアを積んできた真壁幸紀が映画化。日本アカデミー賞最優秀撮影賞を 3 度受賞している撮影の柴崎幸三をはじめ、『ALWAYS』シリーズのベテランがずらり。スクリーンに映し出される四国や高野山の美しい風景も、本作の見どころの一つとなっている。

伊藤淳史

山本美月 溝端淳平

渡辺大知 遠藤雄弥 駒木根隆介 斎藤歩 有蘭芳記 松金よね子

濱田岳 / 松田美由紀

イッセー尾形

監督：真壁幸紀 脚本：平田研也 原作：白川密成『ボクは坊さん。』（ミシマ社）

音楽：平井真美子 主題歌：「Today, Tonight」吉田山田（ポニーキャニオン）

企画・制作プロダクション：ROBOT 製作：映画「ボクは坊さん。」製作委員会 配給：ファントムフィルム

(C) 2015 映画「ボクは坊さん。」製作委員会

公式HP：bosan.jp

10月24日(土)全国ロードショー

※10月17日(土)四国エリア先行ロードショー